

事務事業名	訪問型介護予防事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	T446							
			所属課室	介護福祉課		課長名	清水文秀							
			所属担当	高齢者福祉担当		担当者名	名執秀樹							
基本政策	基本計画体系	17	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		27	社会福祉の充実		04	介護	0	4	0	1	0	1	0	0
政策			地域福祉の充実	事業区分	☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業									
施策					☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 年度）			法令根拠	介護保険法第115条の44									
	☐ 期間限定複数年度（ 年度）													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 二次予防事業対象把握事業において、移動が困難な対象高齢者に対して、訪問により介護予防運動等の実施の必要を説明し、参加計画を作成し介護予防事業を実施する。			事業費の主な内訳（22年度）										
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)				
								計		0				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	事業実績なし
23年度活動予定	二次予防事業対象者に対し、訪問により介護予防を促す。
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
対象者	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
対象者	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
高齢者福祉の満足度	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア: 対象者	人
イ:	
ウ:	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア: 対象者	人
イ:	
ウ:	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア: 対象者	人
イ:	
ウ:	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア:	
イ:	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円			34	34	34	34	
		県支出金	千円			17	17	17	17	
		地方債	千円							
		その他	千円			58	68	68	68	
		一般財源	千円			29	19	19	19	
	事業費計 (A)			千円	0	0	138	138	138	0
	人件費	正規職員従事人数	人			1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間			100	100	100	100	
		人件費計 (B)	千円		0	396	396	396	396	0
	(A) + (B)			千円	0	0	534	534	534	0
活動指標			人							
対象指標			人							
成果指標			人							
上位成果指標										

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	介護保険法による地域支援事業創設により、介護予防を促進するため開始された。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	介護予防について意識する高齢者は増えている。
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている 【内容！】 ☐ 取り組みしていない 【理由！】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	交通手段がない対象高齢者に対して、コミュニティバスを利用するなど公共交通を利用しながら、事業参加できるように計画をつくる。
H 22年度に実施した改革改善の内容	対象者に対して訪問ではなく、交通手段を検討しながら通所型への参加を促した。

事務事業名	訪問型介護予防事業	所属部	保健福祉部	所属課	介護福祉課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 介護保険法に基づき行われている重要な施策である	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 市の高齢者保健福祉計画に基づき実施される事業	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☒ 見直し余地がある 【理由↓】 ☐ 適切である 【理由↓】 介護保険法に基づく事業であり妥当である 23年度対象者の大幅増加も予想されることから、効率面で見るとか本事業費は通所型介護予防に振り返ることも検討	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 高齢者保健福祉計画に基づき実施	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 介護予防が計れない 通所型事業に振り返ることは可能	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 介護予防が計れない 通所型事業に振り返ることは可能
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 高齢者保健福祉計画に基づき実施 通所型事業に振り返ることは可能	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☒ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☐ 削減余地がない 【理由↓】 訪問する人件費を算出すると、本事業にかかる人件費を通所型に振り替えた方が市内高齢者の介護予防の観点からは有効	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 対象者を把握し公平に実施	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	23年度から対象者が大幅な増加が予想され、介護保険法に認められた訪問型では人数が限られ本市の介護予防事業としては有効性に欠ける。 事業費を通所型に振り返ることも検討し、市にとってより効率的、有効的な介護予防事業にすべき。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☒ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☒ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☒</td><td>☐</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☒	☐		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☒	☐																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について 訪問型から通所型に移行すべき																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 訪問でなければ介護予防が計れない対象者がいるか把握が必要 交通手段を検討し対象者に理解を得る	(5) 事務事業優先度評価結果 <table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td></td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td></td></tr> </table>	成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果																		
成果優先度評価結果																						
コスト削減優先度評価結果																						